

令和6年度 授業改善推進プラン（小学校学級担任用）

福生市立福生第一小学校 第3学年2組

1 福生市学力・学習状況調査の結果				
	分類	意識調査の質問項目	組	全国
学びに向かう力	感情のコントロール	5 家の人は自分のことを気にかけてくれていると思う	95.2%	93.7%
		25 自分には、先生や友だちからほめられるような得意なことがある	85.7%	85.1%
		26 自分の力をできるだけ伸ばしたいと思う	85.7%	93.4%
	目標の達成	10 ふだんから「不思議だな」、「なぜだろう」と感じることもある	61.9%	66.3%
		15 ものごとを最後までやり遂げてうれしかったことがある	95.2%	89.8%
	他者との協働	61 私は、友だちをばかにしたりからかったりせず、一人ひとりの心や命を大切にしている。	70.0%	75.3%
	学力と関係が深い質問	27 国語の授業で、文章の書き方のよい例を参考にして書くことがある。	81.0%	82.8%
		30 算数・数学の授業で、文章や式、図や表などを組み合わせて自分の考えを説明したことがある。	76.2%	73.2%
63 私は授業中にむだなおしゃべりをしない。		30.0%	35.4%	
領域名		学力調査の分析 ○成果 ▲課題		
国語	言葉・情報・言語文化	▲全国平均正答率を7.2ポイント下回り、(漢字の書き(ひゃく年前の家))設問に課題がある。		
	話すこと・聞くこと	▲全国平均正答率を0.4ポイント下回り、(放送中の説明と合う内容を選ぶ)設問に課題がある。		
	書くこと	▲全国平均正答率を9.2ポイント下回り、(場面の様子を読み取り、想定される内容を書く)設問に課題がある。		
	読むこと	○全国平均正答率を0.5ポイント上回り、(文章中の説明と合う内容を選ぶ)設問に成果がある。		
算数	数と計算	▲全国平均正答率を4.0ポイント下回り、(3位数-2位数の筆算をする(繰り下がりあり))設問に課題がある。		
	図形	▲全国平均正答率を0.7ポイント下回り、(直角三角形を作図する)設問に課題がある。		
	測定	▲全国平均正答率を0.7ポイント下回り、(かさの単位換算をする)設問に課題がある。		
	データの活用	○全国平均正答率を2.5ポイント上回り、(グラフからあてはまる項目を選ぶ)設問に成果がある。		
2 児童の実態		3 児童の実態を踏まえた授業改善の取組		
<p>・国語の読み取りの学習では、登場人物の気持ちを考えることはできるが、根拠となる叙述を見付けることが難しい児童がいる。そのため、書くことに関する平均正答率も低くなっている。また、漢字の学習に意欲的に取り組むことができている児童は多いが、正しい書き順で書くことに苦手を感じている児童がいるため、漢字の定着が難しい。</p> <p>・算数では、繰り下がりのあるひき算の正しい計算方法が十分に身に付いておらず、誤答が目立ち、「数と計算」の領域の平均正答率が低い結果に繋がっていると考えられる。かけ算九九を完全に習得している児童が50%程度で、残りの児童は7の段、8の段が曖昧な児童が多い。</p>		<p>・国語の読み取りの学習では、日頃の授業の中で、様々な言葉の意味や使い方に着目させながら、文章を読み取らせることで、登場人物の気持ちを考える根拠となる叙述を見付けやすくする。また、漢字の学習では、意欲的に取り組む姿勢は価値付けながらも、正しい書き順で書けるように指導していく。</p> <p>・算数では、「10～19までの数-1桁」の数の計算方法を復習し、練習させることで、繰り下がりがある場合の誤答が少なくなるようにする。また、かけ算が定着するように、授業の冒頭にかけて九九のフラッシュカードを用いて、何度も繰り返し練習し、定着を図る。</p>		
4 ミライシードとの連携機能を活用した取組				
個別ドリルの実施状況		令和6年8月末時点で完了している児童	95.0%	(19人/20人中)
確認テストの実施状況		令和6年8月末時点で完了している児童	90.0%	(18人/20人中)